

1 共催事業の内容

事業の背景取組に関する現状や課題

当該地域における本事業に関する現状と政策上の課題について

宗像市では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした事業を行っている。

しかし、参加者はスポーツ・運動に関心のある市民が大半を占め、固定化してきている。

そのため、運動に関心がある人と運動に対し無関心な人の二極化が進んでいる。運動に無関心な人に対し、従来どおりのアプローチで事業への参加を呼びかけても参加することは少なく、従来のアプローチは限界を迎えている。そのため、スポーツ・運動とは別の観点からその重要性を伝えるなど、新しい切り口からのスポーツ推進を模索する必要がある。

2 目的・ゴール・アウトカム

①目的

どのような政策課題に対する取組として実施するのか

当市のスポーツ推進計画（平成 27 年 4 月制定）の中に目標値として掲げている、週に一回は運動している市民の割合を 65% に到達させる。

②ゴール

目的を達成するためのゴールを設定する

これまで運動習慣がなく運動に無関心だった市民（運動無関心層）や、運動に関心はあるが日常的には運動活動に取り組みていなかった市民（運動未実施者層）が、日常的に運動活動をするようになること。

③目標

目的・ゴールの達成についての目安となる数値目標

本プログラムへの参加者のうち、運動無関心層、運動未実施者層の 3 分の 2 が日常的に運動活動に取り組むようになること。

④アウトカム成果

プロジェクトを通じて創出する成果

日ごろ運動していない人に対して運動行動を誘発するためのアプローチ方法の創出及びそのアプローチを市民へ拡大できるようなパッケージ化したプログラム構築し、自主的に運動を実践する市民の割合を拡大する。

3 実施方法

①対象者

どのように参加者を集めるのか、どのような属性の参加者を見込んでいるのか

健康に関する調査（健康むなかた 21）で、睡眠による休養が十分に取れていないと回答した数が多

かった 20 代～60 代の男女。

②内容

○集客方法

①市役所職員、商工会、トヨタ自動車九州などの地元企業の従業員に向けて告知を行う。

(募集段階で、睡眠講座を実施できないか？→関心を持ったらそのまま事業に参加してもらう)

②地元幼稚園に協力を依頼し、幼稚園児の保護者向けにチラシの配布を行ってもらう。

③昨年の A4S 事業参加者やスポーツ推進委員らに情報を提供し、家族、同僚、友人らに対し本事業を紹介してもらう。

④JR の駅や商業施設など、人の往来が多い場所にポスターを掲示し、周知力を高める。

・行動変容を起こすための仕掛け ※開催日・タイムスケジュール・セミナーの形式等

① A4S 説明会

・A4S 概要説明 (JSC) : 9 月下旬予定

※参加者に合わせ、平日夜間、休日の昼間など複数に分けての実施を検討。

② 基本プログラム

・健康セミナー (JSC) : 10 月末中旬～下旬を予定

・睡眠セミナー (エアウィーヴ) : 10 月末中旬～下旬を予定

・自治体より (オプションプログラム) : 10 月下旬～11 月上旬

③ オプションプログラム

・宗像市スポーツサポートセンター内で行われている各種運動プログラム。

・宗像ユリックスアクアドームにて行われている各種運動教室

・プリンセス駅伝イベント「快感ラン&ウォーク」

・11 月に開催予定の「むなかたウォーキング」「南郷ぐるっと健やかウォーク」

・宗像サニックスブルースのトレーナーによる運動教室

・企業などへの講師派遣 (福利厚生の一環として) 等

【期間中のプログラムへの積極的参加に向けた仕掛け】

案①

参加者それぞれのライフスタイルに合わせ、上記の教室に自由に参加してもらう。

参加者を 5 人ずつなどのグループに分け、積極的に運動活動に取り組んだグループには、協賛品であるエアウィーヴの枕をプレゼントする。

案②

参加者には随時情報の提供を行う、グループ間で SNS で互いの運動実施状況を共有してもらうなどし、プログラム期間中のモチベーション維持に繋げる。

・エビデンスの活用方法

- ・運動とは別の切り口からのアプローチが運動実施率拡大に繋がる、という根拠を基に、今後の事業展開に繋げる。また、平成 31 年度に当市のスポーツ推進計画が中間見直しのため、推進計画の見直しにも活用する。

③全体スケジュール（日程）

- 9月上旬 募集開始
告知活動（商業施設、幼稚園など）
- 9月下旬 募集終了
- 9月29日（予定） 事前説明会
- 10月上旬 介入前調査
- 10月中旬 睡眠セミナー
- 10月下旬～11月上旬 介入後調査（期間内に開かれる教室、イベントなどへの誘導）
- 12月 測定結果の振り返り（フォローアップ研修）

④モニタリング

参加者のプログラム実施状況、データ記録の状況について、どのように定期的に把握するのか

参加希望者には、事前オリエンテーションで集まってもらい主旨を説明する。その際、エアークロスタールの睡眠解析アプリを使ってもらうこと、エアークロスタールからのリスマットを使用することを条件とする。その後に市内で行われている各種運動プログラムのうち、ライフスタイルに合わせて関心のあるもの、参加できるものに参加してもらう。あるいは企業に講師を派遣し、終業後の時間に、今後の運動活動に結びつきそうなプログラムを提供する。また、介入後調査の前と後でアンケートを取り、意識調査及び行動変容が見られたかの調査を行う。

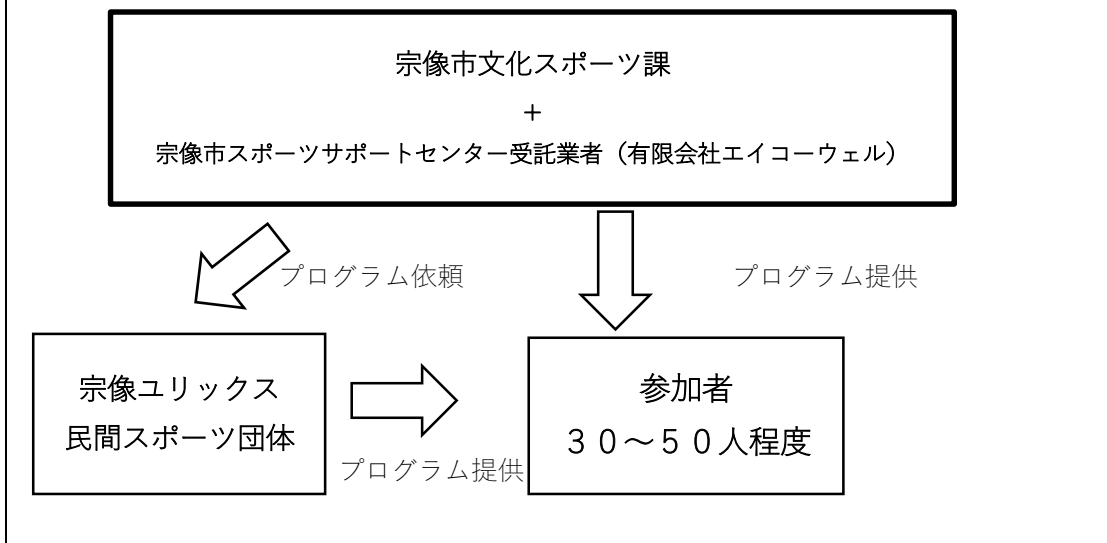
⑤社会的インパクト

プロジェクトの発信をどうしていくか SNS、地元誌、コミュニティ誌の活用など

- ・プロジェクトの様子を随時市の公式 SNS にて発信していく。
- ・市役所の定例記者発表にてマスコミに向けて情報を発信し、取材に来てもらう。

共催事業実施体制
体制図

○事業実施に必要な人員・組織体制及び業務管理を適正に遂行できる体制



体制図に基づく人員

○事務局

役職	氏名	所属・職等
部長	磯部 輝美	市民協働環境部
課長	古沢 昭一	市民協働環境部文化スポーツ課
主幹兼係長	山本 幸江	市民協働環境部文化スポーツ課
主事	未弘 達也	市民協働環境部文化スポーツ課
主事	青木 勇人	市民協働環境部文化スポーツ課